



いなほ



令和4年12月12日
令和4年度学校だより NO.46②
加古川市立平荘小学校

平荘町にある小学校

狂言発表会を行いました (NO.2)

12月7日(水)、6年生は、午前中に狂言発表会の最後の調整を行いました。

最後の調整を終えて、6年生は、山口先生に最後のご指導をいただきました。



今(午前中の練習)は、6年生の中だけで演技が終わっています。もっとみんなを巻き込むとすると、どうしたらいいと思いますか？

のりのりがいいですね。リレー形式で次へつないでいくので、つないでいく意識、バトンを受け取った意識が今は欠けています。受け取る側がクリアしてしまっています。受け継ぐ意識をもって演じましょう。

みなさんは、そつなく上手です。しかし、それで終わってほしくありません。もっと1~5年生や地域の人達を巻き込む力が必要です。そうしようと思ったら、力がうまれます。思うことが大事です。みんなを巻き込むのだと！

午後(発表会本番)は、楽しみましょう！アドバイスがほしい人は、午前中に！

《『柿山伏』より》



山伏と畑主の息がピッタリ！渋い柿を投げ捨てた山伏とその柿が当たった畑主の阿吽の呼吸が最高でした。



畑主に、カラスや猿と言われて物まねをする山伏です。観客を巻き込んで演技ができました。観客と演技者が一つになりました。

キャーツ、キャツ、キャツ、キャツ、キャーツ・・・ クスクスクス (観客：笑)



《猿唄》

6年生は、11月に転出した友だちの心も一緒に猿唄をうたいました。26人の心をつなげて観客に声を届けました。



今年の6年生はすごくまじめで、言ったことをきちっとやりこなします。びっくりします。迂闊なことは言えません。子どもたちを裏切ることはいけません。子どもたちは、稽古後、一週間経つと、上手くなってきています。今日よりも来週と、進歩しています。まじめで一生涯懸命です。

狂言はお笑い芸です。助けてくれたのは、1・2年生です。

リハーサルの時に、「お世話になりました」のことはより、君たち（6年生）が楽しんでいる姿、一生懸命頑張っている姿をみるのが一番うれしいと話しました。

【平之荘神社 宮司様より】

22年間続いてきた平荘小学校の狂言は、すごいことです。平荘町と言えば狂言と知られています。22年間活動されていることを誇りに思ってください。

【平荘狂言教室後援会 谷川会長より】

平荘町全体で応援するもの（平荘小学校の狂言）があることはうれしいです。後一年です。『両荘みらい学園』に向けてつないでいきたいです。

観客は助けてくれます。自分からアクションを起こしたから助けてくれました。自分の思いを相手にしっかりと伝えると、相手は助けてくれます。相手と向き合って自分の言葉を発すると、必ず相手に届きます。

主人・太郎冠者・次郎冠者・山伏・畑主と、ふだんの自分の性格と違うキャラクターだと思いますが、人間の気持ちの中に存在する気持ちです。いろんな性格をもっているのが人間であり、いろんなキャラクターを演じながら成長して欲しいです。自分はこうだと決めつけてはダメです。

そして、ことばは大切です。ことばは、物事を考える軸となります。新しい言葉を自分の中に取り込み成長していくのです。これからも、自分自身を磨いて欲しいです。

